

貯法：1. 気密容器で室温保存，遮光保存
2. 開封後は湿気を避けて保存
使用期限：外箱等に表示の使用期限内に使用すること
(使用期限内であっても，開封後はなるべく速やかに使用すること)

承認番号	22100AMX01576000
薬価収載	2009年9月
販売開始	2009年9月

無機質製剤

ヨウ化カリウム丸50mg 「日医工」

POTASSIUM IODIDE

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- ヨウ素過敏症の患者 [ヨウ素誘発甲状腺腫が生じるおそれがある。]
- 肺結核の患者 [結核組織に集まりやすく再燃させるおそれがある。]

【組成・性状】

本品は1丸中にヨウ化カリウムを50mg含有する黒かつ色の丸剤である。
添加物として、カンゾウ末，センブリ末，トウモロコシデンプン，グリセリン，セラックを含む。
本品は1丸重量 約120mgである。

【効能・効果】

甲状腺腫 (甲状腺機能亢進症を伴うもの)
下記疾患に伴う喀痰咯出困難
慢性気管支炎，喘息
第三期梅毒

【用法・用量】

甲状腺機能亢進症を伴う甲状腺腫には，ヨウ化カリウムとして1日5～50mgを1～3回に分割経口投与する。この場合は適応を慎重に考慮すること。
慢性気管支炎及び喘息に伴う喀痰咯出困難並びに第三期梅毒には，ヨウ化カリウムとして通常成人1回0.1～0.5g (2丸～10丸)を1日3～4回経口投与する。
なお，いずれの場合も，年齢，症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- 甲状腺機能亢進症の患者 [ヨウ素誘発甲状腺腫が生じるおそれがある。]
- 甲状腺機能低下症の患者 [症状を悪化させるおそれがある。]
- 腎機能障害のある患者 [血清カリウム濃度が過剰になり，症状が悪化するおそれがある。]
- 先天性筋強直症の患者 [カリウムにより，症状が悪化するおそれがある。]
- 高カリウム血症のある患者 [症状を悪化させるおそれがある。]

2. 相互作用

(1) 併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リチウム製剤	併用により，甲状腺機能低下作用，甲状腺腫発症作用を増大させることがあるので，脳下垂体—甲状腺反応の変化，甲状腺機能を測定するなど慎重に投与すること。	両剤とも甲状腺機能低下作用があるため併用により相加的な甲状腺機能低下作用があらわれることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カリウム含有製剤 カリウム貯留性利尿剤	併用により，高カリウム血症を起こすことがあるので，血清カリウム濃度を測定するなど慎重に投与すること。	本剤との併用により相加的に作用し，高カリウム血症をきたす可能性がある。
抗甲状腺薬 チアマゾール， プロピルチオウ ラシル	併用により，甲状腺機能低下と甲状腺腫生成作用を増強させることがある。このため定期的に甲状腺—脳下垂体反応の変化を調べ基準になる甲状腺機能を測定すること。	両剤とも甲状腺機能低下作用があるため併用により相加的な甲状腺機能低下作用があらわれることがある。
カプトプリル エナラプリル	併用により，結果的に高カリウム血症を生じることがある。このため血清カリウム濃度をモニタリングすること。	これらの薬剤はアンジオテンシンⅡ産生を抑制し，アルドステロンの分泌を低下させるため，カリウム排泄を減少させる。このため併用により高カリウム血症を生じることがある。

- ¹³¹I療法を行う場合には，その1週間前に本剤の投与を中止すること。[ヨウ化カリウム中のヨウ素は¹³¹Iの摂取率を低下させることがある。]

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

長期連用

長期連用により次のような症状があらわれることがあるので，観察を十分に行い，このような症状があらわれた場合には，投与を中止し適切な処置を行うこと。

1) ヨウ素中毒

結膜炎，眼瞼浮腫，鼻炎，喉頭炎，気管支炎，声門浮腫，喘息発作，前額痛，流涎，唾液腺腫脹，耳下腺炎，胃炎等の症状があらわれることがある。さらに中毒症状が進行すると発疹，面疱，瘡，蕁麻疹，水疱，微熱，甲状腺腫，粘液水腫等の症状があらわれることがある。

2) ヨウ素悪液質

皮膚の粗荒，体重減少，全身衰弱，心悸亢進，抑うつ，不眠，神経過敏，性欲減退，乳房の腫大と疼痛，骨盤痛があらわれることがある。

(2) その他の副作用

	頻 度 不 明
過 敏 症 ^{注)}	発疹等
消 化 器	悪心・嘔吐, 胃痛, 下痢, 口腔・咽喉の灼熱感, 金属味覚, 歯痛, 歯肉痛, 血便(消化管出血)等
そ の 他	かぜ症状, 不規則性心拍, 皮疹, 原因不明の発熱, 首・咽喉の腫脹等

注) このような症状があらわれた場合には, 投与を中止すること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には, 治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[本剤は胎盤関門を通過し, 胎児の甲状腺腫及び甲状腺機能異常を起こすことがある。]

(2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[母乳中への移行が認められ, 乳児に皮疹や甲状腺機能抑制を起こすことがある。]

6. 小児等への投与

皮疹や甲状腺機能抑制を起こすことがある。

7. 臨床検査結果に及ぼす影響

¹³¹I 摂取率, PBI検査を行う場合には, その1週間前に本剤の投与を中止すること。(ヨウ化カリウム中のヨウ素は¹³¹Iの摂取率を低下させ, また, PBI検査成績に影響を与えることがある。)

8. 過量投与

多用量の経口摂取後は澱粉糊又は穀粉糊を投与。チオ硫酸ナトリウム1gを水にまぜ与える。塩類下剤(硫酸ナトリウム30gと250mLの水)。緩和剤として牛乳と卵。高食塩食が排除を速やかにする。発疹には収斂性包帯(酢酸アルミニウム洗浄剤)と酢酸コーチゾン50mgを6時間ごとに与える。

9. 適用上の注意

(1) 本剤を長期連用する場合には定期的に血清カリウム濃度を測定することが望ましい。

(2) 食直後の経口投与により, 胃内容物に吸着されることがあるので, 注意すること。また, 制酸剤, 牛乳等との併用は胃障害を軽減させることができる。

10. その他の注意

投薬時:

本品は吸湿性があり, 直接素手で触れないこと。

【薬物動態】

1. 代謝・排泄

摂取したヨウ素の大部分は腎を経て尿中に, 少量が糞便中に排泄される。また, 唾液, 胃液, 腸液中に少量が, 乳汁にごく少量が分泌される。腎からの排泄はCl⁻と同じだが, Cl⁻の20倍も速い。¹⁾投与後24時間以内に65%~80%が尿中にあらわれる。²⁾

2. 溶出挙動

ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」は, 日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたヨウ化カリウム丸の溶出規格に適合していることが確認されている。³⁾

【薬効薬理】

ヨウ化カリウムは体内でヨウ化アルカリとして分布し, 病的組織においてヨウ素を遊離する。

甲状腺機能亢進症では, ヨウ素は3',5'-cyclic AMPを介する甲状腺刺激ホルモンの作用を減弱させ, 亢進症状を抑制する。また, ヨウ素は気管支粘膜分泌を促進し去痰作用を現す。更に, 梅毒患者の肉芽組織に対する選択的な作用により, 第三期梅毒患者のゴム腫の吸収促進に用いる。⁴⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名: ヨウ化カリウム

分子式: KI

分子量: 166.00

性 状: 無色もしくは白色の結晶又は白色の結晶性の粉末である。

水に極めて溶けやすく, エタノール(95)にやや溶けやすく, ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は湿った空气中でわずかに潮解する。

【取扱い上の注意】

安定性試験

長期保存試験の結果より, ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。⁵⁾

【包 装】

1,000丸(ヒートシール)

【主要文献】

- 1) 熊谷 洋: 臨床薬理学大系 14, 63, 中山書店, 東京(1974)
- 2) 伊藤 宏: 薬理学(第6版)343, 栄光堂, 東京(1988)
- 3) 日医工株式会社 社内資料: 溶出試験
- 4) 第十五改正日本薬局方解説書 C-4497, 廣川書店, 東京(2006)
- 5) 日医工株式会社 社内資料: 安定性試験

【文献請求先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

日医工株式会社 お客様サポートセンター
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

☎(0120)517-215

Fax(076)442-8948